



感染症発生動向調査 Infectious Diseases Weekly Report

週報

今週の発生動向総覧	1	今週の全データ	10
今週の注目疾患(咽頭結膜熱)	2	感染症の話(ポリオ)	18
今週の時系列グラフ総覧	3		

今週の発生動向総覧

全数報告の感染症:

1類感染症の報告はない。2類感染症は、細菌性赤痢11例(先週の報告数7)、腸チフス3例(5)、パラチフス1例(3)の報告がある。3類感染症の腸管出血性大腸菌感染症は18例(6)が報告されている。4類感染症では、アメーバ赤痢1例(2)、ウイルス性肝炎25例(11)、クロイツフェルトヤコブ病1例(0)、AIDS6例(4)、ジアルジア症1例(1)、ツツガムシ病2例(0)、梅毒4例(5)、ライム病1例(0)、レジオネラ症1例(0)の報告がある。また、先週報告のあったデング熱および破傷風の報告は0例であった。

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの):

先週より増加しているものはA群溶血性連鎖球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、ヘルパンギーナ、麻疹(成人を除く)、流行性角結膜炎であった。

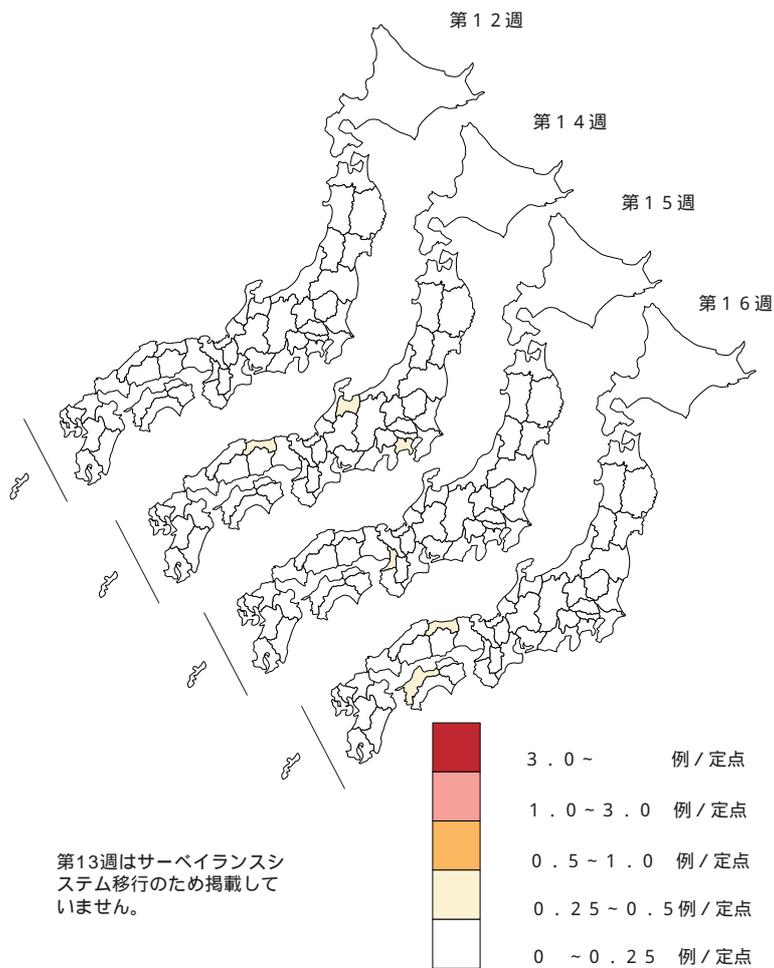
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は2333例の報告があり(定点あたり0.90)先々週から増加を続けている。感染性胃腸炎は12075例の報告(定点あたり4.68)があった。患者の年齢のピークは1-2歳であり、乳児嘔吐下痢症の原因となるロタウイルスによる感染が主であると考えられるが、病原体についての情報は現在収集中である。水痘は先週よりも増加したものの全体としては横ばいである。九州地方からの報告が多い。手足口病およびヘルパンギーナについては徐々に増加しているが、例年もっとも報告の多いのは27-29週であり、例年の最大値と比較するとまだ少ない。麻疹は先週より増加しているものの、報告数は311例であり、昨年度までの発生動向調査と比較すると低く推移しているが、これは今年度からの発生動向調査では成人麻疹が報告から除かれたためかもしれない。流行性角結膜炎は茨城県、宮崎県、沖縄県、鹿児島県などからの定点当たりの報告が多い。

先週と比べ横ばい、あるいは減少しているものは、インフルエンザ、咽頭結膜熱、伝染性紅斑、突発性発疹、百日咳、風疹、流行性耳下腺炎であった。インフルエンザ定点からの報告総数は3,285件で、定点あたりの報告数は0.96人と順調に下降している。ただし北海道、東北地方では、定点あたりの報告数が3人から6人台のところもある。咽頭結膜熱、伝染性紅斑、突発性発疹などでは昨年度までと比較すると、全体としてはやや多めに推移しているなかでの先週と比較しての減少である。また、百日咳、流行性耳下腺炎では昨年度と比較してもやや少な目に推移している。

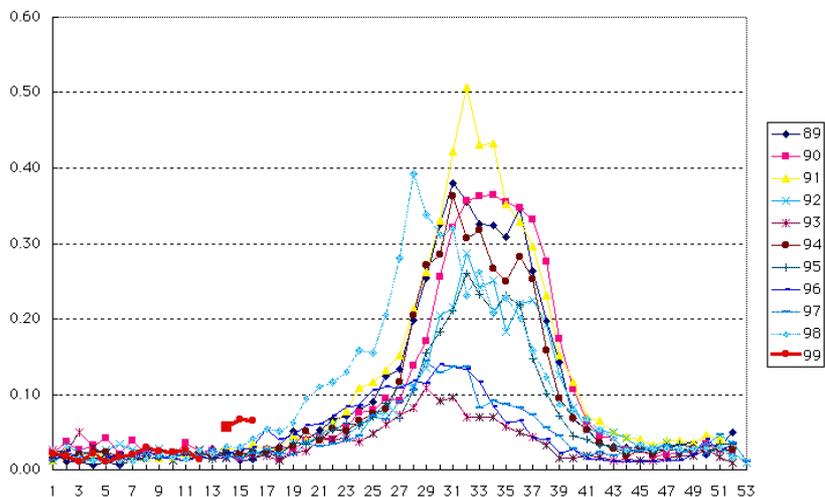
(注)現在の時点で定点把握の疾患について全県分未報告の県は千葉県(千葉市含む)、一部の保健所で未報告の県は、神奈川県、長野県である。

今週の注目疾患(咽頭結膜熱)

昨シーズンの咽頭結膜熱は例年より流行が長引いて、冬に入ってからもしばらくは高めの報告数で推移していた。今年に入ってから例年よりも報告数は多めであったが、地域的に見ても大きな集積性は見あたらない。しかしながら、早い年には5月下旬より報告数が増加し始めるため、今後の推移が注目される。

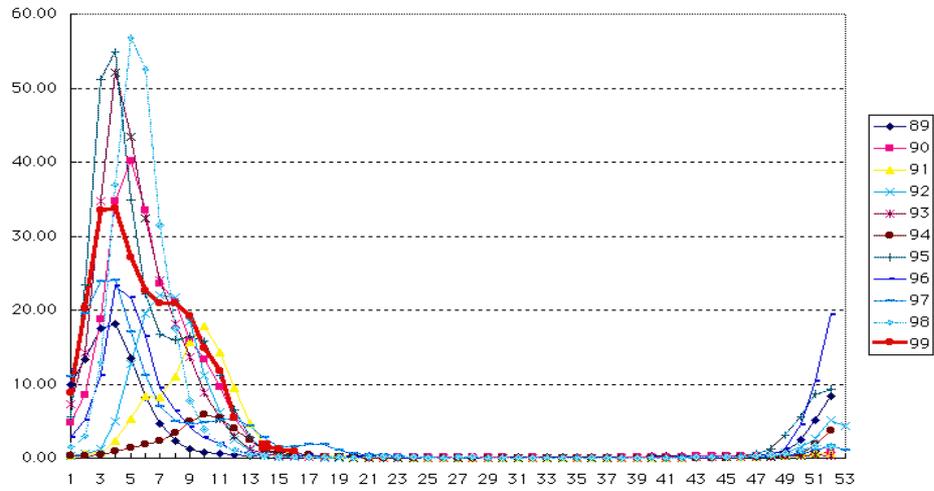


咽頭結膜熱の10年間の週別定点当たり発生報告数グラフ

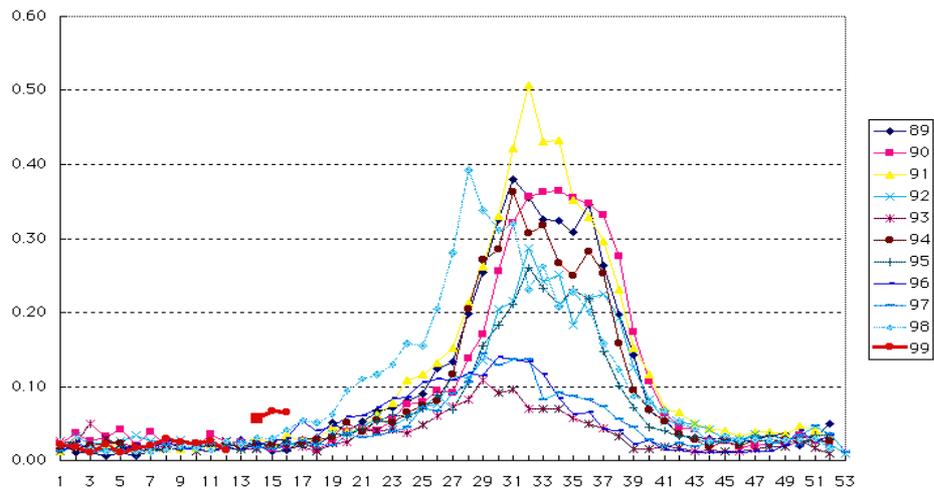


今週の時系列グラフ総覧

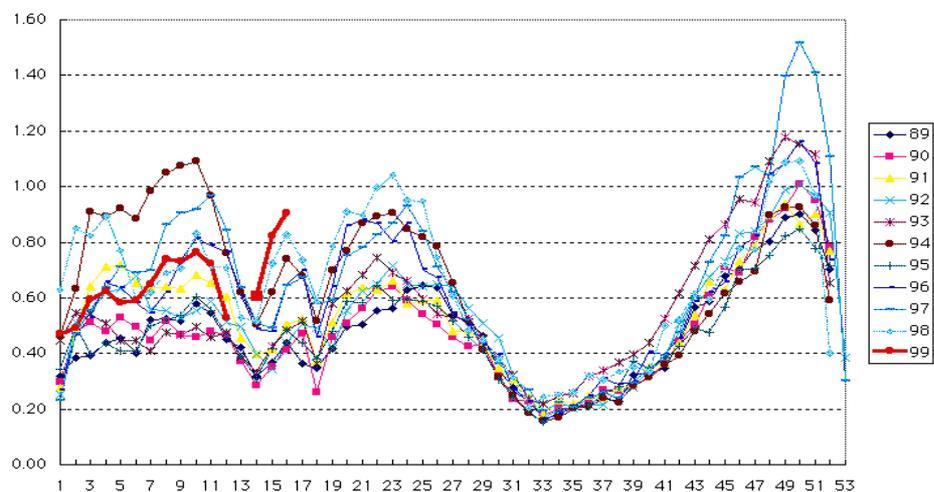
インフルエンザ



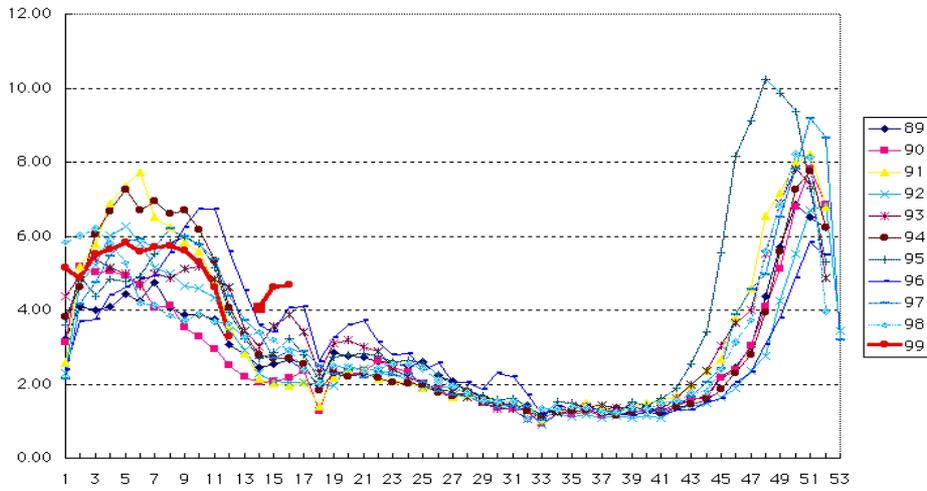
咽頭結膜熱



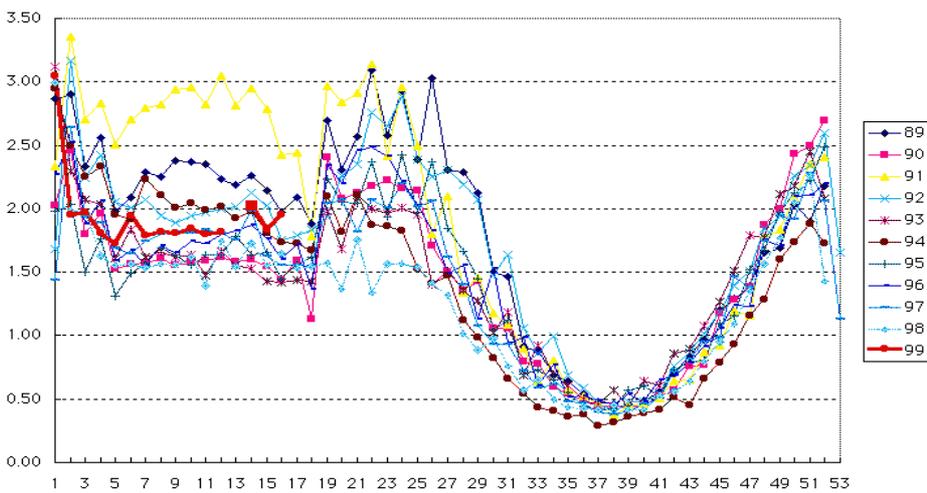
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



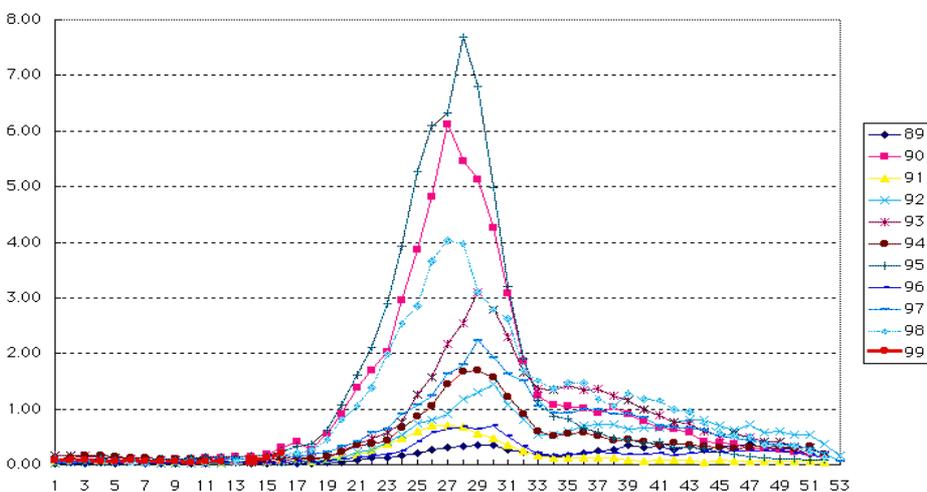
感染性胃腸炎



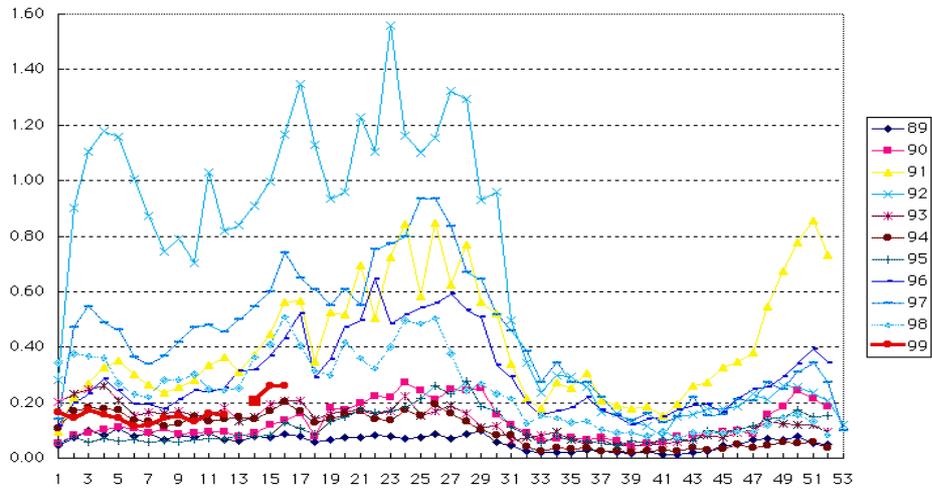
水痘



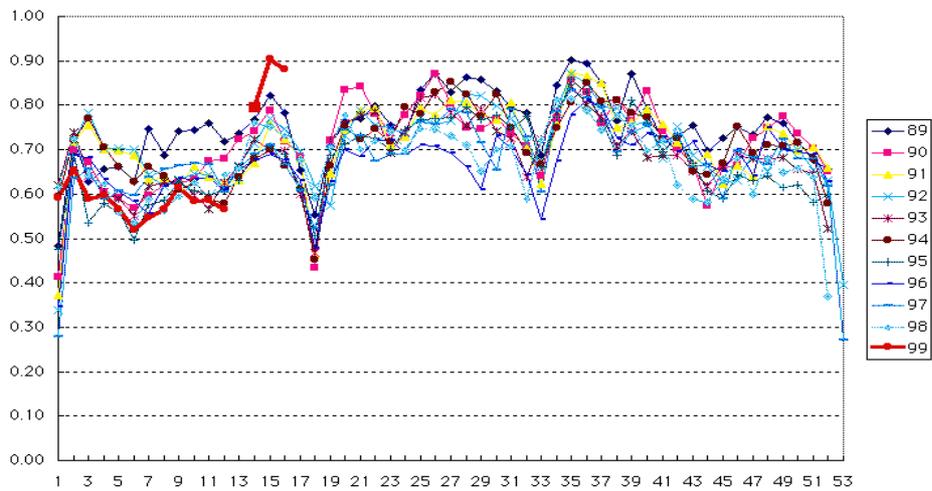
手足口病



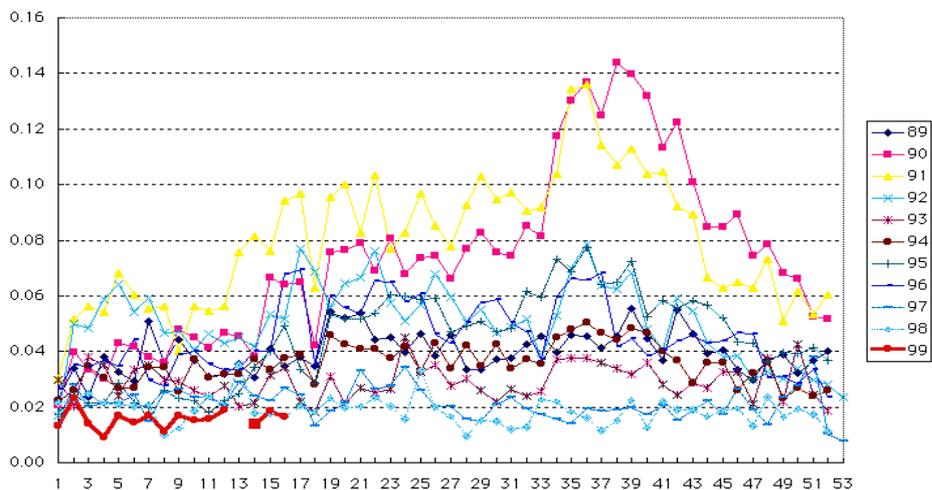
伝染性紅斑



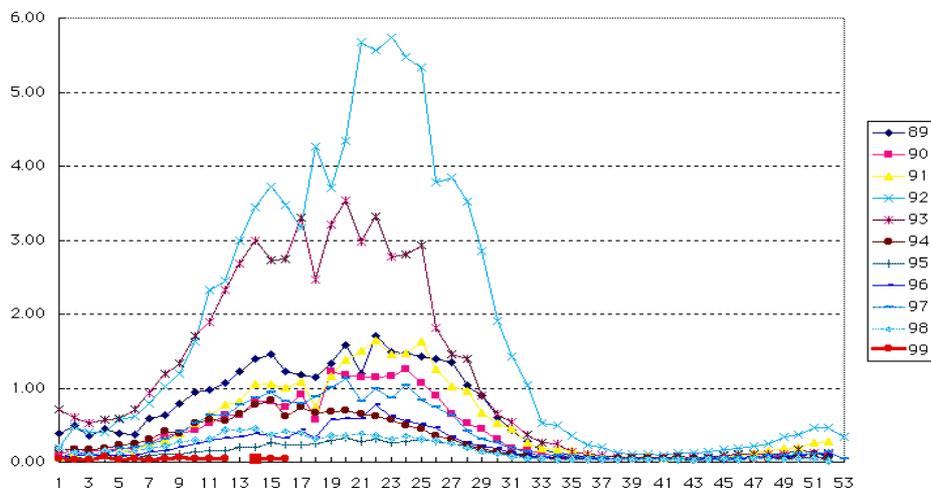
突発性発疹



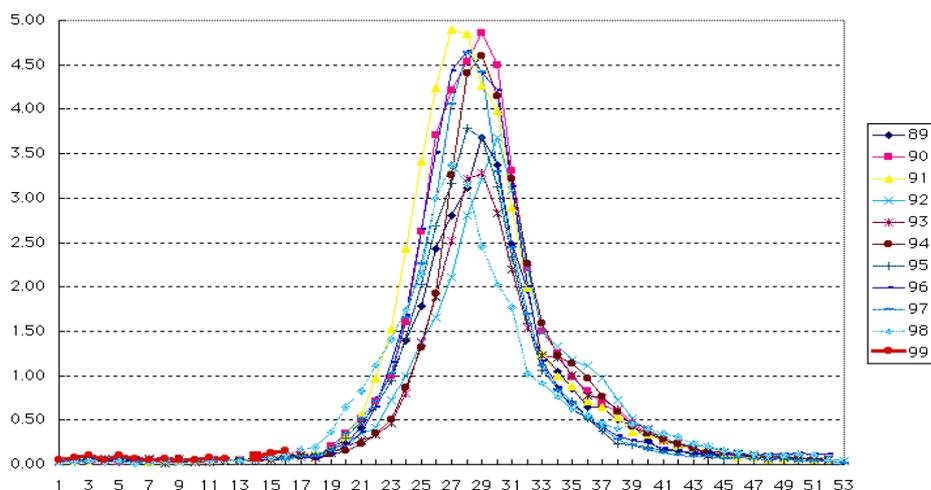
百日咳



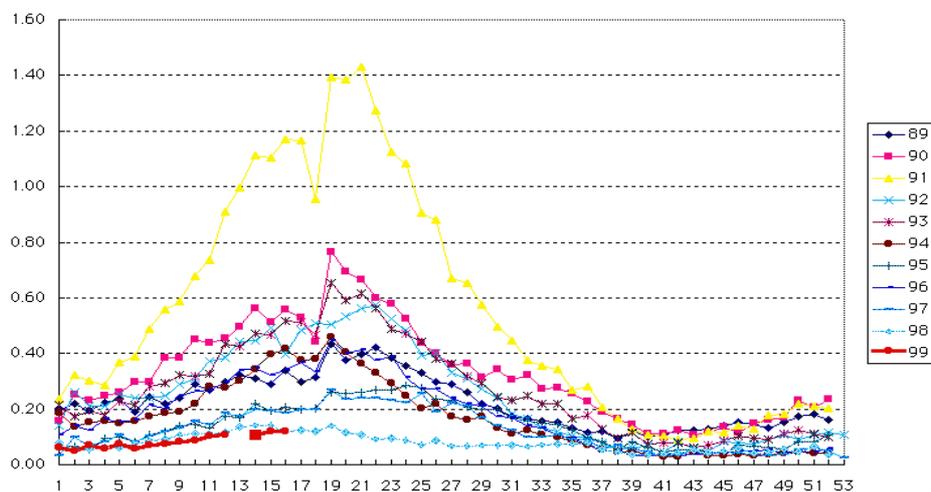
風 疹



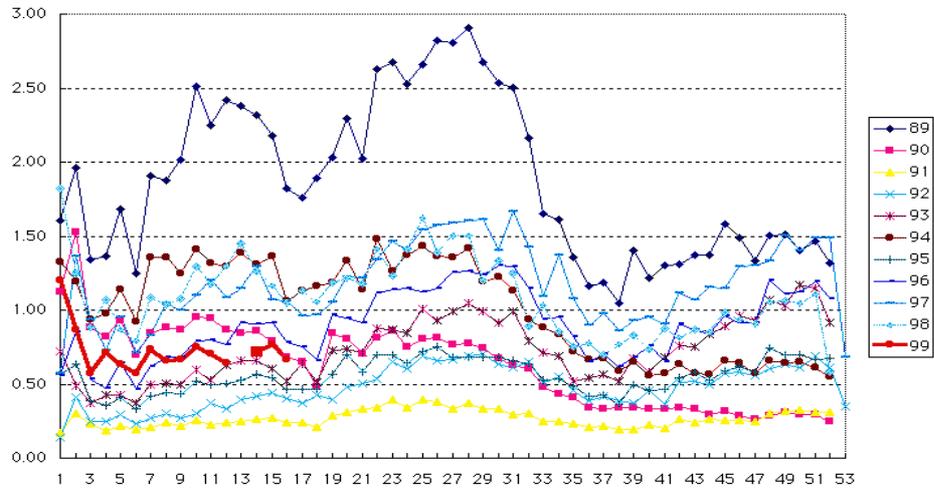
ヘルパンギーナ



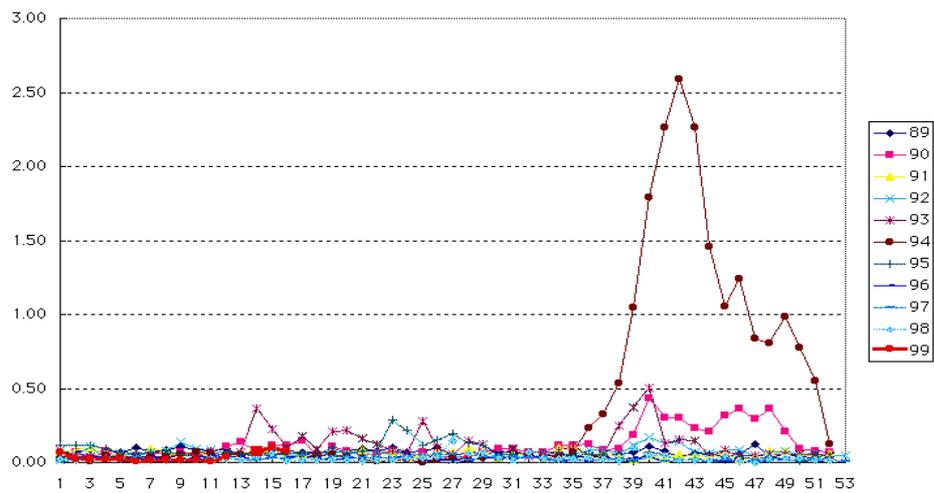
麻 疹 (成人麻疹を除く)



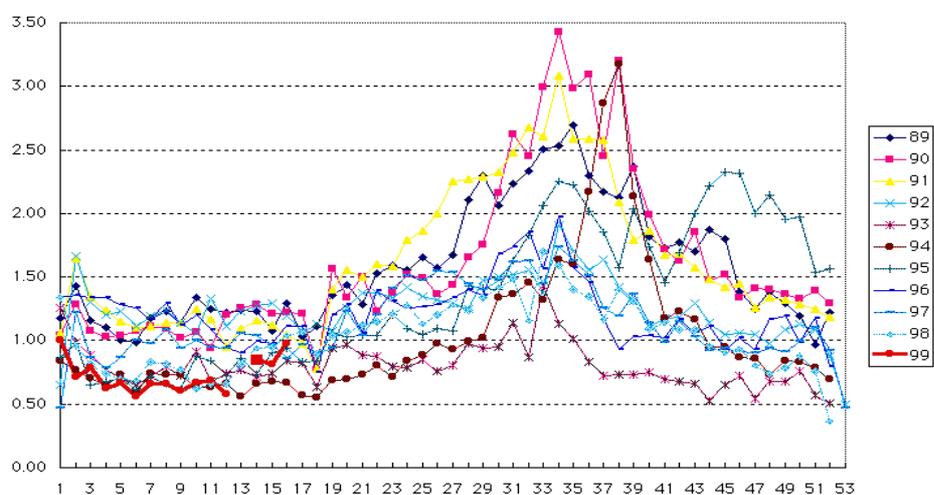
流行性耳下腺炎



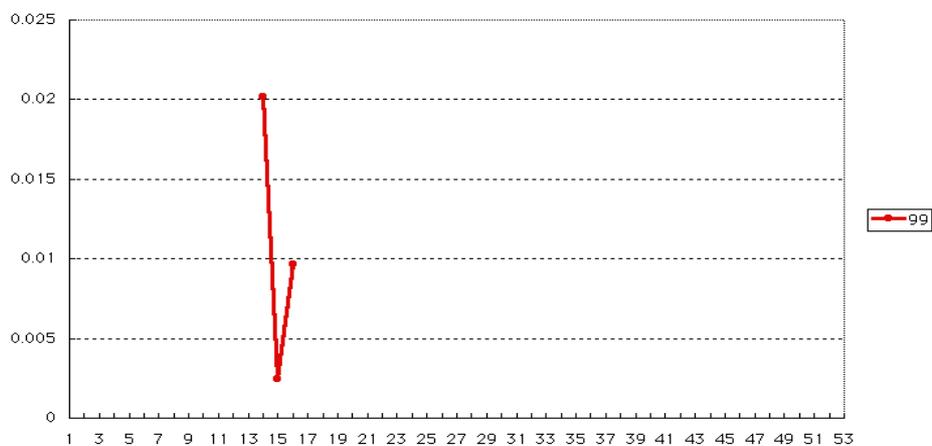
急性出血性結膜炎



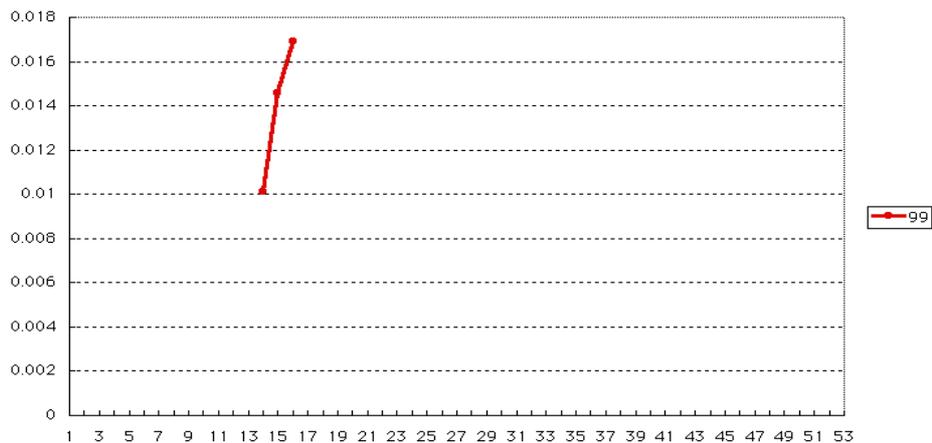
流行性角結膜炎



急性脳炎(日本脳炎を除く)



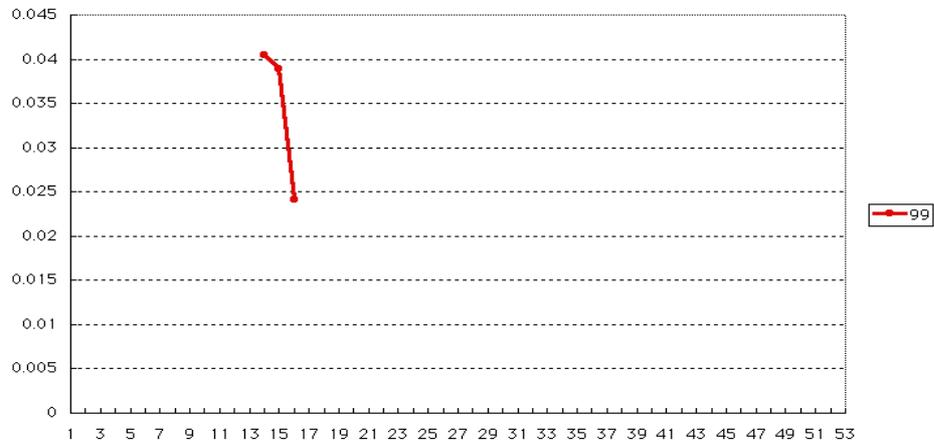
細菌性髄膜炎



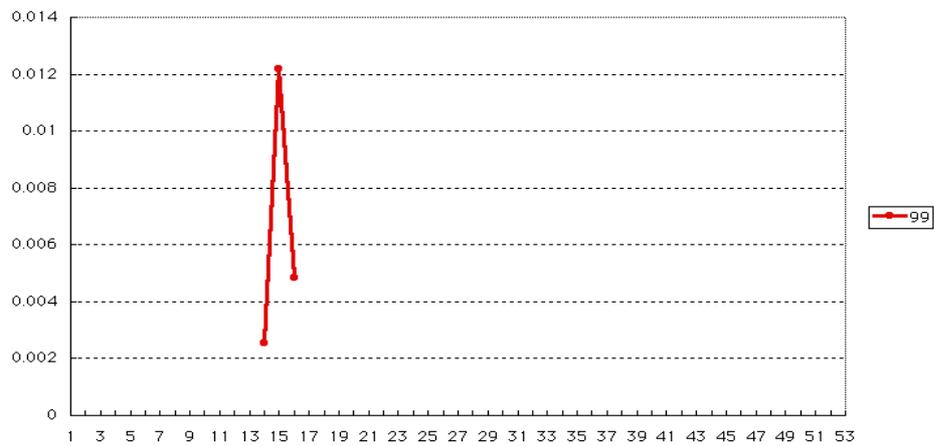
無菌性髄膜炎



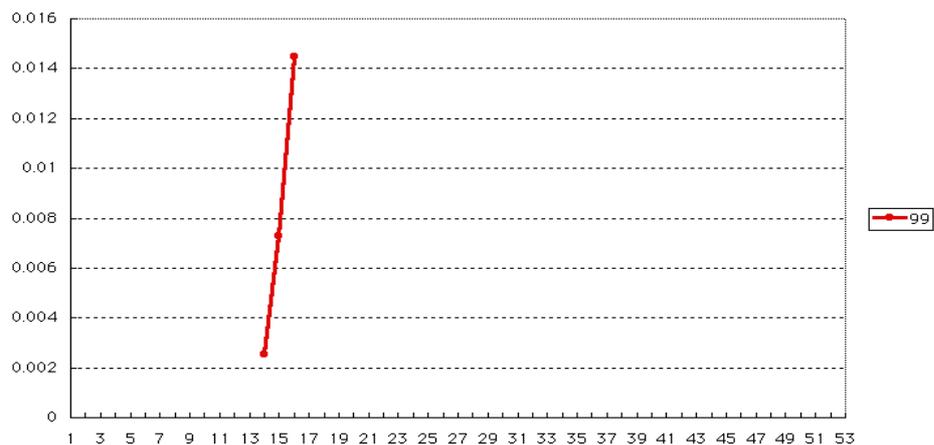
マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎 (オウム病を除く)



成人麻疹



第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

		平成11年16週																	
		髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風疹症候群		炭 疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児ボツリヌス症		梅 毒	
01		報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
01	総 数	-	-	-	-	-	-	2	4	-	2	-	-	-	-	-	1	4	26
	北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
	青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	宮城県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
	神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
	新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	富山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	島根県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	2
	山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成11年16週

01	平成11年16週																	
	風疹		ヘルパンギーナ		麻疹		流行性耳下腺炎		急性出血性結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
01																		
01																		
01																		
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	124	0.05	415	0.16	311	0.12	1727	0.67	40	0.08	490	0.98	4	0.01	7	0.02	9	0.02
北海道	21	0.15	2	0.01	6	0.04	59	0.41	1	0.03	18	0.62	-	-	-	-	-	-
青森県	4	0.10	-	-	26	0.63	16	0.39	-	-	2	0.18	-	-	-	-	-	-
岩手県	1	0.03	2	0.05	-	-	9	0.24	2	0.17	6	0.50	-	-	1	0.05	-	-
宮城県	-	-	2	0.04	13	0.25	34	0.67	3	0.33	6	0.67	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	22	0.65	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	11	0.37	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
福島県	1	0.03	2	0.06	-	-	16	0.44	-	-	11	1.38	-	-	-	-	-	-
茨城県	3	0.04	-	-	8	0.12	17	0.25	-	-	43	3.07	-	-	-	-	-	-
栃木県	2	0.04	2	0.04	3	0.07	28	0.61	2	0.17	10	0.83	1	0.17	-	-	-	-
群馬県	1	0.02	5	0.08	15	0.24	48	0.77	1	0.07	15	1.07	-	-	-	-	-	-
埼玉県	17	0.15	5	0.04	55	0.49	49	0.44	-	-	40	1.54	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	8	0.06	16	0.11	12	0.08	53	0.37	-	-	8	0.57	-	-	-	-	-	-
神奈川県	6	0.06	3	0.03	24	0.25	39	0.40	2	0.17	15	1.25	-	-	-	-	-	-
新潟県	1	0.02	4	0.07	1	0.02	6	0.10	-	-	4	0.44	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	30	1.03	-	-	6	0.21	-	-	4	0.57	1	0.20	-	-	-	-
石川県	1	0.03	13	0.45	-	-	6	0.21	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	8	0.36	3	0.14	6	0.27	-	-	-	-	-	-	1	0.20	-	-
山梨県	1	0.04	1	0.04	-	-	6	0.24	1	0.33	4	1.33	-	-	-	-	-	-
長野県	1	0.02	5	0.11	-	-	37	0.80	2	0.22	10	1.11	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	9	0.17	-	-	23	0.43	-	-	4	0.36	-	-	-	-	-	-
静岡県	3	0.04	3	0.04	3	0.04	56	0.71	-	-	26	1.44	-	-	-	-	-	-
愛知県	4	0.02	23	0.13	1	0.01	83	0.45	3	0.09	20	0.57	-	-	-	-	-	-
三重県	3	0.07	8	0.18	-	-	31	0.69	-	-	5	0.42	-	-	-	-	1	0.13
滋賀県	-	-	3	0.09	-	-	29	0.91	-	-	-	-	-	-	1	0.14	1	0.14
京都府	1	0.01	1	0.01	1	0.01	36	0.47	2	0.11	10	0.56	-	-	-	-	-	-
大阪府	4	0.03	35	0.24	3	0.02	74	0.51	-	-	14	0.58	-	-	-	-	-	-
兵庫県	7	0.05	21	0.16	1	0.01	209	1.63	3	0.09	28	0.80	-	-	1	0.07	1	0.07
奈良県	1	0.03	5	0.14	-	-	29	0.83	1	0.11	6	0.67	-	-	1	0.17	2	0.33
和歌山県	-	-	2	0.06	1	0.03	75	2.34	-	-	2	0.50	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	2	0.11	-	-	38	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.20
島根県	-	-	-	-	-	-	31	1.41	-	-	2	0.67	-	-	-	-	1	0.14
岡山県	14	0.25	4	0.07	-	-	47	0.85	-	-	11	0.92	-	-	-	-	-	-
広島県	3	0.05	10	0.15	11	0.17	51	0.77	4	0.24	12	0.71	2	0.11	-	-	1	0.05
山口県	-	-	29	0.60	1	0.02	24	0.50	1	0.11	14	1.56	-	-	-	-	-	-
徳島県	1	0.04	2	0.09	3	0.13	17	0.74	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-
香川県	1	0.03	1	0.03	-	-	35	1.09	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	1	0.03	1	0.03	36	0.92	-	-	11	1.83	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	62	2.00	-	-	6	2.00	-	-	-	-	-	-
福岡県	2	0.04	43	0.90	1	0.02	30	0.63	-	-	21	2.33	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	11	0.48	-	-	28	1.22	-	-	4	1.00	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	20	0.45	-	-	34	0.77	12	1.50	14	1.75	-	-	-	-	-	-
熊本県	2	0.04	37	0.76	-	-	27	0.55	-	-	20	2.22	-	-	-	-	1	0.07
大分県	-	-	23	0.64	2	0.06	24	0.67	-	-	5	1.00	-	-	-	-	-	-
宮崎県	1	0.03	11	0.30	12	0.32	68	1.84	-	-	11	2.75	-	-	2	0.29	-	-
鹿児島県	3	0.05	10	0.17	-	-	50	0.85	-	-	15	2.50	-	-	-	-	-	-
沖縄県	6	0.19	1	0.03	104	3.35	12	0.39	-	-	26	2.60	-	-	-	-	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成11年16週

01	-----8-----8-----8-----							
	マイコプラズマ クラミジア肺炎 成人麻疹							
01	肺炎 (オウム病を除く)							
	4-----8-----5-----8-----5-----8-----							
01	報告数 定点当り 報告数 定点当り 報告数 定点当り							
	-----5-----2-----2-----2-----2-----2-----							
	総 数		10	0.02	2	0.00	6	0.01
	北海道		-	-	-	-	-	-
	青森県		-	-	-	-	-	-
	岩手県		1	0.05	-	-	-	-
	宮城県		-	-	1	0.11	1	0.11
	秋田県		-	-	-	-	-	-
	山形県		1	0.11	-	-	-	-
	福島県		-	-	-	-	-	-
	茨城県		-	-	-	-	1	0.11
	栃木県		-	-	-	-	-	-
	群馬県		-	-	-	-	-	-
	埼玉県		-	-	-	-	-	-
	千葉県		-	-	-	-	-	-
	東京都		-	-	-	-	-	-
	神奈川県		-	-	-	-	-	-
	新潟県		-	-	-	-	-	-
	富山県		1	0.20	-	-	-	-
	石川県		-	-	-	-	-	-
	福井県		2	0.40	-	-	-	-
	山梨県		-	-	-	-	-	-
	長野県		-	-	-	-	-	-
	岐阜県		-	-	-	-	-	-
	静岡県		-	-	-	-	-	-
	愛知県		-	-	-	-	1	0.08
	三重県		-	-	-	-	-	-
	滋賀県		-	-	-	-	-	-
	京都府		-	-	-	-	-	-
	大阪府		-	-	-	-	-	-
	兵庫県		-	-	-	-	-	-
	奈良県		-	-	-	-	-	-
	和歌山県		-	-	-	-	-	-
	鳥取県		-	-	-	-	-	-
	島根県		-	-	-	-	-	-
	岡山県		-	-	-	-	-	-
	広島県		-	-	-	-	-	-
	山口県		-	-	-	-	-	-
	徳島県		-	-	-	-	1	0.17
	香川県		-	-	-	-	-	-
	愛媛県		1	0.17	-	-	-	-
	高知県		-	-	-	-	-	-
	福岡県		-	-	-	-	-	-
	佐賀県		-	-	-	-	-	-
	長崎県		-	-	-	-	-	-
	熊本県		1	0.07	-	-	-	-
	大分県		-	-	-	-	-	-
	宮崎県		3	0.43	-	-	-	-
	鹿児島県		-	-	1	0.09	-	-
	沖縄県		-	-	-	-	2	0.33

01

感染症の話

<ポリオのお話>

1. 病原体

ポリオ(急性灰白髄炎、小児麻痺、Acute poliomyelitis)の病原体はポリオウイルスで、その抗原性により1型、2型、3型の3種類に分けられ、エコーウイルス、コクサッキーウイルスとともにエンテロウイルス属(腸内ウイルス属)に分類される。

70%アルコールやエーテル、界面活性剤では不活化されず、熱、ホルムアルデヒド、塩素、紫外線により速やかに不活化される。ポリオウイルスは口から入って咽頭や小腸の粘膜で増殖し、咽頭や糞便から検出される。侵入したウイルスはリンパ節を介して血流中に入り、脊髄を中心とする中枢神経系へ達し、脊髄前角細胞や脳幹の運動神経ニューロンに感染し、これを破壊することによって典型的なポリオの症状をきたす。発症後1週間を経過すると咽頭にはウイルスはほとんど存在しなくなるが、糞便には数週間に渡って排泄される。

2. 疫学

ポリオウイルスの自然宿主は、ヒトのみである。ポリオ流行の記載は18世紀頃からみられ、1950年代まではしばしば、世界各地で流行した。不活化ワクチンに次いで生ポリオワクチンが開発され、多くの国でポリオ患者は激減した。WHOは、西暦2000年までに世界からポリオを根絶する計画をたて、地域流行のある国を中心にして定期的ポリオワクチン接種を推進し、National Immunization Days(NIDs:一定の日に一定年齢の子どもたちに一斉にポリオワクチンをのませる)を実施することによりこれらを補足し、さらには高危険地域では家庭訪問によるワクチン接種の徹底(Mopping-up campaigns)を行っている。

確実にポリオ様患者を捕捉するために急性弛緩性麻痺(Acute flaccid paralysis; AFP)の発生動向調査が行われている。WHOのデータによると、日本が所属している西太平洋地域からもほぼ根絶のめどがついてきている。しかし、東地中海地域、南東アジア(インド、ネパール等)、アフリカ地域では経済状態や紛争の影響もあって流行が続いており、さらなる対策が必要と考えられている。

日本におけるポリオは、1940年代頃から全国各地で流行がみられ、1960年には北海道を中心に大流行となった。1961年に生ワクチンを緊急輸入し、一斉に投与することによって流行は急速に終息した。引き続き国産生ワクチンが認可され、1963年からは定期接種が行われて現在に至っている。1980年の1型ポリオを最後に、野生型ポリオウイルスによるポリオ麻痺症例はこれまでにない。

3. 臨床症状

潜伏期は概ね6~20日であるが、感染者の90~95%は不顕性に終わる。約5%(4~8%)では、発熱、頭痛、咽頭痛、悪心、嘔吐等の感冒様症状が出現し(不全型)、1~2%では上記の症状に引き続き無菌性髄膜炎を起こす(非麻痺型)。感染者の0.1~2%に定

典型的な麻痺型ポリオ、すなわち前駆症状の1~10日後、四肢の非対称性の弛緩性麻痺が出現する。この場合、特に小児における前駆症状は2相性となることが多く、初期の軽い症状の後1~7日の間隔をあけて、表面反射消失、筋肉痛、筋攣縮などの前駆徴候がみられ、その後麻痺に進展する。なんら前駆症状なくして麻痺が現れる症例もある。麻痺は下肢に多くみられる。知覚障害はみられない。麻痺型としてはこのような脊髄型が大部分であるが、球麻痺を合併して嚥下、発語、呼吸が障害されることもある。多くの症例で完全に麻痺は回復するが、発症から12ヶ月過ぎても麻痺或いは筋力低下が残る症例では、永続的な後遺症を残すことになる。死亡率は小児では2~5%、成人では15~30%で、成人や妊婦では小児より重症になる傾向がある。球麻痺を合併すると死亡率は25~75%と高率になる。髄液検査では、細胞数増多(10~200/mm³)、蛋白の増加(40~50mg/dl)が見られる。

4. 診 断

確定診断はウイルス分離及び血清診断による。ウイルス分離は比較的容易であるが、麻痺が出てからできる限り早い時期に検査材料(糞便など)を2回採取する必要がある。咽頭からは初発症状出現後約1週間、糞便からは約2週間はウイルスが分離できる。髄液からウイルスを分離できれば非常に診断的価値は高いが、分離率は低い。ポリオウイルスが検出された場合は、ワクチン由来株か、野生株かの鑑別が必要となる。血清中和抗体は、急性期と回復期のペア血清で4倍以上の上昇が認められれば診断的価値があるが、発症早期から上昇するので確認できないこともある。診断上は糞便からウイルスを分離することがもっとも重要である。

5. 本邦における根絶証明のための調査

ポリオ根絶に関するWHOの決議を受け、本邦におけるポリオ根絶宣言のために、平成10年5月1日よりポリオ様疾患の発生動向調査が行われている(ポリオ根絶証明のためのポリオ様疾患患者発生動向調査について:健医感発第33号)。これによりポリオが疑われるような急性弛緩性麻痺患者を診断した医師は保健所に連絡するとともに確定診断のための検体(糞便)を発症14日以内に2回採取することが求められている。この発生動向調査により国内のポリオ患者発生がゼロであることが臨床的、ウイルス学的に確認されて後、我が国におけるポリオ根絶が国際的に認められることになる。

6. 治 療

特異的な治療法はなく、対症療法が中心となる。呼吸障害や分泌物喀出不全が認められる例では、気管切開、挿管、あるいは補助呼吸が必要となる。

7. 予 防

本邦を含む多くの国々では、不活化ワクチンあるいは経口生ワクチンの普及によりほとんどポリオ麻痺患者発生はみられていない。しかし、いまだに世界には野生ポリオが流行ないし存在している地域が存在し、国内的には常に我が国への侵入を警戒しておく必要がある。

現在わが国のポリオの予防接種は生ワクチンの2回投与方式であるが、世界的には3回以上の投与が一般的である。3つの型の混合ワクチンを投与しても、ある型が腸管内で先に増殖すると、干渉作用により他の型のウイルスが増殖できずに免疫が得られないことがある。厚生省流行予測調査によるポリオ中和抗体保有状況をみると、1型、2型に対する抗体保有状況は良好であるが、3型に対しては若干低い。このような点から、ポリオがまだ存在する国への旅行者に対してはポリオワクチンの追加投与が勧められている。また20歳代の年齢群では1型に対する抗体保有率も低いため、特にこの年齢群には留意するべきである。

感染症週報 第1巻、第3号 平成11年5月10日発行

発行：国立感染症研究所 感染症情報センター

厚生省保健医療局結核感染症課

厚生省大臣官房統計情報部

連絡先：〒162-8640 東京都新宿区戸山1-23-1 (感染症情報センター)

T E L : 03-5285-1111

F A X : 03-5285-1129

U R L : <http://www.mhw.go.jp> <厚生省>

<http://idsc.nih.go.jp> <感染症情報センター>

本週報に記載のデータは、感染症新法に基づく発生動向調査によるものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所等の皆様のご協力により収集されたデータです。本週報記載の内容について、速報性を重視してありますので、今後、調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には、週報上にて訂正させていただきます。また本週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。